

道徳科学習指導案（1年4組）

- 1 主題名 心の弱さを乗り越えるために〔D（22）よりよく生きる喜び〕
- 2 教材名 銀色のシャープペンシル（出典：新訂 新しい道徳1 東京書籍）
- 3 ねらい 心の弱さと良心の間で葛藤する主人公に自分を重ね、心の弱さを乗り越えて人間としてよりよく生きていこうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

4 主題設定の理由

(1) 教材観

本教材は、拾ったシャープペンシルを自分のものにしてしまい、取ったことを疑われた際に「前に自分で買った」と嘘をつきごまかし続けてしまった「ぼく」の姿を、生徒の日常生活と重ね合わせながら考えさせるものである。「ぼく」はシャープペンシルを見つからないうちに持ち主である卓也のロッカーに返すが、持ち主の卓也から「疑ってごめん」と謝られてしまったことで、「過ちを認め本当のことを言わなければ」という気持ちと「言わなければいけない」という弱い心の間で葛藤する。最後は心の弱さに打ち勝つ「ぼく」に共感することを通して、よりよく生きる喜びに気づき、誇りある生き方に近づく手がかりとすることができる。また、友達と議論することを通して、多面的・多角的に考え、心の弱さを乗り越え人間としてよりよく生きていこうとする道徳的実践意欲と態度を育てることができる。

(2) 生徒観（男子19名、女子15名 計34名）

中学校の段階では、誰もが心の弱さや醜さを内にもつことを理解できるようになってくる。そのことを理解はしているが、心の弱さに負け、正しい行いができないこともある。本学級においては、これまで、学級活動や体育大会、長縄大会などの行事において、自分を奮い立たせ弱い心に打ち勝つことがよりよい生き方につながることを考えさせてきた。このような指導を通して、生徒は自分の失敗を素直に認めて次に生かそうとするようになってきた。一方で、やるべきことや正しい行いは分かっているが、自分の心の弱さに負け楽な方に流れてしまったり自分のやりたいことばかりを優先してしまい友達のために行動できなかつたりする生徒もいる。これは、自分の心の弱さと向き合い克服することでよりよい生き方ができることに気づき、行動しようとする生徒が少ないことが原因である。

(3) 指導観

- ・導入では、「弱い心に負けてしまったことはあるか」「誰にでも弱い心はあると思うか」「心の弱さを乗り越えられるとどんな生き方ができると思うか」についての事前アンケートの結果をモニターで学級全体に共有することで、自分や学級の実態を把握し、問題意識をもって授業に取り組むことができるようにする。また、教材の場面絵や登場人物の相関図をモニターで示しながら捉えさせることで、教材の場面や登場人物の人間関係等を理解し、状況を踏まえながら読むことができるようにする。さらに、主人公の心の弱さが表れている場面や心の弱さを乗り越えた場面等に着目しながら読むことができるようにする。
- ・展開では、「ぼく」が心の弱さと良心の間で葛藤する場面でのどんなことを考えていたかを、ロイロノートのカードに一言で表現させることで、考えを端的に表すことができるようにする。また、カードを、回答共有機能を活用して学級全体で共有し、即時に友達の意見を確認できるようにすることで、自分の意見と比較をしたり友達の考えに興味をもったりして、話し合いを活発にし、多面的・多角的に考え議論することができるようにする。さらに、弱い心と良心の間で葛藤しながらも最終的には心の弱さに打ち勝つ主人公の行動に共感させながら、「自分だったらどうするか」と生徒自身の意思について考えさせる発問をすることで、誰にも心の弱さがあることを受け入れつつも、自分の弱さを克服し強さに変えていくことがよりよい生き方につながることに自分との関わりで捉えることができるようにする。
- ・終末では、課題に対する考えを再び書かせることで授業開始時からの考えの深まりを自覚させ、弱さを乗り越えて人間としてよりよく生きていこうとする道徳的態度を育てられるようにする。
- ・授業で扱ったワークシートは、「スタディオログ（ワークシートを内容項目ごとに分類させるための用紙）」に蓄積させ、定期的に振り返る時間を設定することで、自らの学びを振り返り、道徳性に関わる成長の様子を実感し、次の学びに生かせるようにする。

5 本時の展開

＜「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるためのICTの活用＞

- 個** ロイロノートのカードに考えをまとめ、可視化する。スタディログにワークシートを蓄積する。
- 協** ロイロノートのカードをモニターで共有して、互いの考えを交流する。

主な学習活動		指導上の留意点及び支援・評価
予想される生徒の反応	ICT活用<分類>	
<p>1 本時の課題をつかむ。 ○心の弱さについて自分事として問題意識をもつ。</p>	○アンケートの結果をモニターで確認する。〈共有〉	○アンケート結果を共有することで、課題を自分事として捉えられるようにする。 個
<p>課題：心の弱さを乗り越えるためには、どんな生き方が大切だろうか。</p>		
<p>導入</p> <p>○課題に対する自分の考えを書く。 ・弱さに負けず強い心をもつ。 ・ずる賢く生きない。 ○状況を捉える。 【情況】 主人公は銀色のシャープペンシルを拾い使っていたが、卓也のものを取ったと、健司に言いふらされた。主人公は、自分で買ったと嘘をつく。 ○教材「銀色のシャープペンシル」（前半部）の範読を聞く。</p>	○教材の場面絵や関連図をモニターで確認する。〈可視化〉	○課題に対する授業開始時の考えを書かせることで、授業終了後の考えと比べ、自らの考えの深まりを実感できるようにする。 個 ○状況を絵や図で示すことで、登場人物の人間関係をすぐに捉えることができるようにする。 個 ○課題を解決するために話し合いたい場面を考えて教材を読ませることで、教材の範読後、すぐに話し合いに入れるようにする。
<p>2 教材を通して「よりよく生きる喜び」について考える。 ○主人公の判断を基に、人の心の弱さやそれを克服することがよりよい生き方につながることに考える。</p> <p>(電話を受け、) 主人公は何を考えただろうか。</p> <p>○主人公の考えを一言で書き、ロイロノートの提出箱に提出し、議論する。 ・友達が裏切れない。 (赤のカード) 本当のことを言うに考えが近い ・正直に言おう。 ・友情が崩れる。 (青のカード) ごまかすに考えが近い ・嘘つきと思われる。 ・ぼくが悪いのに。 ・どうしよう。 ・なぜ文句言わない? (黄のカード) どちらにも考えが近くない ○教材(後半部)の範読を聞く。</p>	○話し合いたい場面をロイロノートのカードを使って表し、全体で共有する。〈共有、比較〉	○課題を解決するために話し合う場面(主人公が心の弱さを乗り越える)をカードで共有させることで、道徳的価値について主体的に考えられるようにする。 個
<p>展開</p> <p>○自分の考えを、カードを使って表現する。〈可視化〉 ○モニターに映った友達のカードを確認する。〈共有、比較〉</p> <p>○カードを使い、考えを一言で表現させることで、自分の考えを端的に表せるようにする。個 ○カードをモニターで共有することで、友達の考えに興味をもったり友達の考えと自分の考えを比較したりしながら議論を深め、多面的・多角的な考えをもてるようにする。協 ●補助発問：自分なら、本当のことを言えるだろうか。 ○卓也の誠実さをきっかけに、主人公が心の弱さを乗り越えられたことに気付かせることで、他者のよりよい生き方に憧れるという考えをもてるようにする。 ●補助発問：誰も知らないのだから、本当のことを言わなくてもよいのではないか。 ○自分ならどうするか、自分は思うかと自分自身について考えさせる補助発問をして意見を伝え合わせることで、道徳的価値を自分事として捉えられるようにする。</p>	○卓也の家に向かって歩き出した主人公は何が変わったのだろうか。 ・過ちを認め、心の弱さを乗り越えた。 ・誠実な卓也に憧れた。 ○卓也の家に向かうときの気持ちを考える。 ・卓也にどんな顔をされるか心配。 ・直接謝り、新たなスタートを切りたい。 ○心の弱さを乗り越えることで、どんな生き方ができるかを考える。 ・自分の非を認め、誠実に生きられる。 ・人のよりよい生き方から学ぶ謙虚な心をもてるようになる。	○カードを使い、考えを一言で表現させることで、自分の考えを端的に表せるようにする。 個 ○カードをモニターで共有することで、友達の考えに興味をもったり友達の考えと自分の考えを比較したりしながら議論を深め、多面的・多角的な考えをもてるようにする。 協 ●補助発問：自分なら、本当のことを言えるだろうか。 ○卓也の誠実さをきっかけに、主人公が心の弱さを乗り越えられたことに気付かせることで、他者のよりよい生き方に憧れるという考えをもてるようにする。 ●補助発問：誰も知らないのだから、本当のことを言わなくてもよいのではないか。 ○自分ならどうするか、自分は思うかと自分自身について考えさせる補助発問をして意見を伝え合わせることで、道徳的価値を自分事として捉えられるようにする。
<p>3 課題を振り返り、これからの自分について考える。 ○課題に対するこれまでの自分を振り返り、これからの自分についてワークシートに書く。 ○振り返りで書いた他者の考えを知る。</p>	○ワークシートを「スタディログ」に蓄積する。〈データ蓄積〉	○ワークシートを蓄積させることで、自らの学びを振り返ることができるようにする。 個
<p>【評価の視点】 「弱い心に負けてしまっても、非を認めたり、他社のよりよい生き方から学んだりして乗り越え、内なる自分に恥じず、自信をもって生きていきたい。」という記述をしている。(ワークシート)</p>		
<p>[多面的・多角的なものの見方] ・人のよりよい生き方を自分の生き方と照らし合わせて、反省したり改善したりする姿勢が必要になる。 [道徳的価値の深い理解] ・弱い心に負けてしまっても、自分の非を認めて乗り越え、自分に恥じない生き方をしていきたい。</p>		
<p>終末</p>		